

標準作型 ○印・播種(種まき) ×印・刈り取り △印・定植 □印・収穫

年 数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年目			○									×
2年目			△									×
3年目												

栽培のポイント

排水がよく、耕土の深い土壌が最適で、病気が出なければ5～10年位は収穫し続けられる。春～秋の間に発生する茎枯病等を徹底防除する。

品 種 ウェルカム(サカタ)草勢強い緑茎種。
パープルタワー(渡辺農事)紫アスパラガス。出芽数は緑茎種より少ない。

播 種 種子はまく前にぬるま湯に一昼夜つけるとよく発芽する。

(種まき)

苗づくり 少ない本数での栽培では、育苗箱に種をすじまきにする。本葉3～4枚のころ4号ポットに上げておき、冬に入り、茎葉が枯れてきたら地上部は切り離し、翌春、鉢から抜いて畑へ植え出す。

多い本数を育てる場合は、本圃に柵を切り、5～6ヶ所間隔に2～3粒ずつ、種をまき、草丈10ヶ所くらいで間引きして、1本仕立てにしておく。冬に葉が枯れたら地際部から刈取る。刈り取った葉は、病原菌の越冬場所にならないよう集めて土中深く埋める。7～8年たち、株が疲れてきたら新しく植え替える。

畑の準備

苦土石灰(10kg/a)・堆肥(100kg/a)を1ヶ月前に施しておく。
永年性なので粗大有機物を多く施用する。溝をつくり中に堆肥・油粕を投入し10ヶ所くらい土を埋め戻しておく。

元 肥

(1a当たり使用量)

燐硝安加里 S646	4 kg	播種・定植前
CDU 燐加安 S555 号タマゴ	6 kg	
BM しょうりん	6 kg	

定 植

植え溝にりん芽が5ヶ所程度の深さになるように植付ける。
翌春、根をたくさんつけるようにして株を掘り取り、植付ける。
主茎の地上部50ヶ所までに伸びた下枝は取り除き、通風を良くする。

追肥・中耕

夏から秋の追肥がポイント。
中耕を怠らず、茎葉を大きく育てる。倒れると根への養分蓄積が妨げられるので忘れずに支柱を立てる(10ヶ所程度の目合いのネットを水平に張る)。

(1a当たり使用量)

燐硝安加里 S646	12 kg	5月上旬より
------------	-------	--------

病虫害防除

最大の問題は、茎枯病や立枯病で、いったん激発すると徐々に株が衰えて出芽しなくなる。そのため、本来は雨よけ施設内での栽培が望ましい。露地栽培の場合は、定期的に予防的薬剤を地際部から葉先まで、丁寧に散布する。特に、茎が硬くなる夏までは入念に行う。その他アザミウマ類、ハスモンヨトウなどを適宜防除する必要がある。

収 穫

3年目から、伸びた芽(約25ヶ所程度)を地際から切り取り収穫する。
強い芽が出ている間に収穫を打ち切り、残った芽を生長させ、株に来年の養分を蓄積させる。

収穫後の管理

茎が伸びてきたら一株当たり10～12本を残し、そのあとから出た茎葉は整理する。
夏から冬にかけて毎年同じ管理を続ける。
風で倒れやすいので支柱を立て、横にテープを張り、倒れないようにする。

夏・秋の管理

支柱立て(両脇に支柱を立て、ポリテープ等を張っておく)。
追肥は5月から1ヶ月に1回、計3～4回追肥し(一株あたり油粕を少々)、中耕をする。

冬の管理

冬になり茎葉が枯れたら刈取り、茎枯病対策のため、切株をバーナーで焼く。
冬の間堆肥を施す。堆肥は一株あたりバケツ半分位株のまわりに埋めておく。